



つしま トピックス

おっ つしま
! な島です。 対馬



元気にマーチング

(財)日本防火協会から豊玉町の仁位保育所に鼓笛隊セットが送られ、伝達式が行われました。早速、園児たちは真新しいセットで元気に演奏してくれました。



永年の功績を讃えて 秋の叙勲

平成22年秋の叙勲において、消防功勞により瑞宝単光章を受章された巖原町安神の平間秀美さんが市長室に受章の報告に訪れました。今回は巖原町西里の上利幸男さんも郵政業務功勞により瑞宝単光章を受章されています。



地域いきいき

11月6・7日、豊玉町で「いきいき豊玉まつり」が開催され、多くの人で賑わいました。文化活動発表や舞台でのパフォーマンス、大鍋でふるまわれた「イノシシ鍋」など地域が一体となった盛りだくさんのイベントになりました。



とらやまの森に響け

11月6日、上対馬町舟志の森自然学校(旧舟志小)で「やまねこ音楽祭」が開催されました。訪れた人々は、ライトアップされたステージに響くジャズなどの音色に酔いしれました。



“郷土の心、みんなに響け” 蒙古太鼓復活!

蒙古(もうこ)襲来で討ち死にした宗家初代当主:宗助国(そうすけくに)公らをしのぶ小茂田浜神社大祭が、11月12日に行われました。今年は、佐須地区出身者等で構成された地域おこしグループ「佐須響心会(杉村智律会長)」が「つしま蒙古太鼓保存会」の阿比留秀雄先生の指導のもと「蒙古太鼓」を復活させ、太鼓の音と郷土を思う心が小茂田の浜に響きわたりました。



写真提供:佐須響心会



“国境”の意義とは？

11月12・13日、対馬市交流センターで「国境フォーラムin対馬」が開催されました。「国土の保全・海洋資源の利用・自然環境の保全に重要な役割を担っている国境・離島にもっと目を向けるべき」との意見が出されました。



「対馬の鉄人」今年も健在

11月13・14日、長崎市を中心に開催された「長崎県民体育大会 陸上男子砲丸投 (60歳以上)」において、渡辺博美さん(厳原町西里)が9m81の大会新記録で優勝しました。渡辺さんはこの種目「3連覇」! 年々記録を伸ばす「鉄人」ぶりは健在です。



スポーツは「生涯の友」

厳原町西里の平山清治さんが、多年にわたる体育・スポーツへの貢献により長崎県体育協会から表彰を受けました。平山さんは体育指導委員として、また対馬市陸上競技協会副会長として活躍中です。



自然の恵みに感謝

11月21日、厳原町内山地区で恒例の「内山盆地収穫祭」が開催されました。内山地区で採れた新鮮な野菜・新米・しいたけなどが販売され、多くの人で賑わいました。



対馬の歴史は奥が深えちゃ!

対馬の歴史・偉人を後世に繋ぐ活動を続けている「対馬芳洲会」が、11月23日、発足20周年記念講演会を開催しました。参加者は、清泉女子大学:天学柱先生と地元郷土史家:永留久恵先生の講演に熱心に耳を傾けていました。



対馬再生への「地搦き」

11月28日、対馬市交流センターで第20回対馬島郷土芸能発表大会が開催され、対馬各地に伝わる盆踊りが披露されました。また、ステージの最後には、会場が一体となって「地搦き(広報つしま11月号を参照)」が行われました。



地域への「愛」に感謝して

長年にわたる地域の子供たちへの献身的な健全育成活動により、上対馬町泉法雲寺住職の一宮徳裕さんに全国防犯協会連合会から防犯栄誉賞が授与されました。



ひと味違うよ!

対馬原木木炭を贅沢に使って丁寧にコーヒー豆を焼き上げた「九州の黒炭焼珈琲」が、九電産業(株)から販売されています。パッケージに目を凝らすと対馬の地図が…。



集結 めざせ!! 「食」と「エコ」の島

地産地消など地域の特性に合わせた食育の推進と対馬の自然環境を守る市民意識の向上をめざして、11月28日、今年で2回目となる「対馬食エコフェスタ」が開かれました。

会場となった峰町のシャインドームでは、地場産品、食育、生ゴミ減量、健康づくりなどの個人やグループによる様々な関連ブースが設けられたほか、学校や保育所、幼稚園での食育活動報告、環境講演会、パネルディスカッションなどが行われ賑わいました。



地産地消



- ① 駐車場では様々な農林水産物を販売
- ② 市長はイノシシの炭焼きを振る舞う
- ③ グルメコンテスト無敵! 対馬とんちゃん部隊 初参加
- ④ 新そばの販売も大人気
- ⑤⑥ 対馬はちみつコーナーでは、はじめて開催されたコンクール出品作品を展示
- ⑦⑧ “「地もん」を食べようコンクール”には175点もの応募。市民の素晴らしいアイデア料理がずらり



STOP温暖化



講演会では、地球温暖化に影響を与えている温室効果ガスの排出をコストとして考え、その吸収量を売るという炭素取引についての説明と事例紹介、この仕組みで期待される対馬の可能性などが話されました。



身近な生活の中で消費されている電力を数字で見る



廃油ろうそくづくり体験でエコを楽しく学ぶ

E M



E M講演会ではE Mを活用した環境と福祉のまちづくりで知られる埼玉県戸田市の市職員吉田義枝さんが「生ゴミは宝の山」と題して講演。ゴミをお金のかかるものからお金を生み出すものに!との発想の転換を話す吉田さんは、生ゴミを

焼却する費用を徹底的に削減し、さらに障害者、高齢者の雇用につながるE M堆肥活用事業の展開や、紙切れ一枚も無駄にしない市をあげてのリサイクルの徹底ぶりなどを紹介しました。



生ゴミリサイクル、ほかし作り実演



E M発酵液の無料配布

「E Mによる対馬(しま)再生」をテーマにしたパネルディスカッションには、市民の代表ら6人が参加。E Mによる川の再生や花栽培などの事例が紹介されました。市長は「E Mを市内全体に普及し、対馬の生ごみをゼロにしよう」と提言。

食べて、見て、聞いて、触れあいながら対馬の食と環境について考えました。



この事業は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施しました。